

平成20年度 女性のチャレンジ賞 受賞者（全4件）

氏名(団体名)	所 属	都道府県	賞 罰	活動 内 容
グリーンレディースにかほ (代表:菊地 紀子) (団体)	一	秋田県	2007年度「秋田県男女共同参画社会づくり表彰(ハーモニー&チャレンジ表彰)」チャレンジ賞<秋田県主催> 2006年度「農山漁村女性チャレンジ活動表彰」最優秀賞(農林水産大臣賞)<(社)農山漁村女性・生活活動支援協会、(社)全国農業改良普及支援協会主催、農林水産省後援>	営農情報交換グループ「トマト会」を経て、1997年に「グリーンレディースにかほ」を発足し、水稻単一経営が中心であった地域で女性主体で花卉栽培に取り組み、複合経営を定着させて女性農業者の経営参画を実現した。 2001年には秋冬野菜等を送る「ふるさと薰り宅配便」を開始、2002年には農家と非農家の男女による援農システム「グリーンネットワーク」を立ち上げて繁忙期の労力調整に成功するなど、地域の人々のネットワークづくりに貢献している。また、商店街の空き店舗を利用した直売活動や消費者交流イベントの開催を通じて、地域づくりにも貢献している。 メンバーは、女性農業士、農業委員、JA総代として活躍の幅を広げているほか、家族経営協定の積極的な締結や海外研修への参加などにより、農村における男女共同参画の推進役となっている。
谷 あゆみ (個人)	谷厩舎経営	北海道	2007年度「北海道男女平等参画チャレンジ賞」輝く女性のチャレンジ賞<北海道主催>	大学卒業後、1988年に北海道浦河町にある(有)谷川牧場に就職し、翌年には種馬所に配属されて競走馬として有名だった「シンザン」の世話係となる。1993年にばんえい競馬厩務員となり、2005年には女性として初めてばんえい競馬の調教師試験に合格、翌年10頭の馬で厩舎を開業した。その年の秋に発生したばんえい競馬の存続問題では、携わる人々の失職やばん馬の行く末という問題とともに、北海道の開拓の歴史である「馬耕文化」を後世に伝えることができなくなるという考え方から、積極的に街頭活動等を行い、存続に貢献した。 そのほか、馬を題材にした絵本の発行や新聞コラムの執筆、「馬と馬文化」などについての講演活動等により、ばん馬・北海道の馬文化の情報発信に務めている。また、馬とのふれあいによる情操教育や地域活性化等への広がりも期待されている。
村山 由香里 (個人)	株式会社アヴァンティ代表取締役社長	福岡県	2002年 第1回「女性起業家大賞」奨励賞<全国商工会議所女性会連合会主催>	1993年に起業し、女性たちが働き方や生き方を考え、勇気と希望を感じる情報誌をつくりたいと、働く女性を応援するネットワーク型情報誌というコンセプトのもと「アヴァンティ」を発行している。現在、福岡、北九州、熊本地域の事業所等に約32万部を無償配布とともに、働く女性のためのコミュニティサイト「e-avanti」を運営し、紙媒体とウェブサイトを通じた情報発信により、あらゆる場面で女性が活躍できるような意識づけに取り組んでいる。また、活躍する女性たちをパネリストとしたトークライブやセミナー、食事会等を行い、女性の出会いや刺激の場を提供している。 そのほか、福岡県中小企業家同友会の副代表理事や、行政の各種審議会委員などを務めており、近年では、男女共同参画の視点での講演活動も積極的に行っている。
山本 文子 (個人)	NPO法人いのちの応援舎理事長	香川県		助産師として35年の経験を生かし、「性を大切にすることはいのちを大切にすること」をテーマとして主に思春期の子どもたちを対象として講演活動を行っていたが、1999年には長年勤めた病院を辞めて「いのちの応援舎」として、講演をしながら子育てや思春期の悩み相談に応じる活動を一人で始めた。 2005年には活動を通して集まった仲間とともにNPO法人に改組し、翌年には、赤ちゃんの誕生から豊かな老後まで、みんなが集まり助け合う施設を作りたいと、助産院、子育て支援、高齢者デイサービスを行なう福祉施設を開設しました。助産院を含む地域に開かれた多機能複合施設の運営は、全国的にも先駆的な取組である。 また、2007年からは県内で初めての緊急子育てサポートセンターとしても活動を行っている。

平成20年度 女性のチャレンジ支援賞 受賞者（全1件）

団体名	代表者氏名	都道府県	賞 罰	活動内容
NPO法人 フローレンス (団体)	代表理事 こまさき ひろき 駒崎 弘樹	東京都	2006年「ソーシャルベンチャービジネスアワード」<NPO法人ソーシャルイノベーションジャパン、マイクロソフト(株)共催>	<p>2005年、地域の子育て経験豊富なベテランママたちが、提携する地域の小児科医の医療的バックアップを受けながら自宅等で病児を預かるという地域密着型の病児保育サービスを、全国で初めて事業化した。特定の施設を持たず、また、会員から利用の有無に関わらず一定額の月会費を徴収して運営費に充てるという保険的なシステムを採用することで、新たなビジネスモデルを構築している。</p> <p>そのほか、「病児保育コンサルティング事業」として病児保育事業を行うために必要なノウハウを提供しているほか、「ワーク・ライフ・バランスコンサルティング事業」等により中小企業を含めたワークライフバランスの推進にも力を入れるなど、子育てや働く女性を支援する新しい取組を行っている。</p>

平成20年度 女性のチャレンジ賞特別部門賞(環境) 受賞者（全3件）

氏名(団体名)	所 属	都道府県	賞 罰	活動内容
えざき きく 江崎 貴久 (個人)	有限会社オズ 代表取締役 (有限会社菊乃代表取締役、若女将の会「うめの薔会」会長)	三重県	2006年「このガイドさんに会いたい100人」選定<NPO法人日本エコツーリズム協会主催>	<p>2001年に(有)オズを設立し、鳥羽市答志島等で「海島遊民くらぶ」として海や磯の体験ツアーのほか、エコツーリズムに関するインフォメーションセンターの運営等を行っている。漁協などと連携して提供している様々な海や磯の体験学習プログラムでは、観察方法、ツアー人数、活動日数などに自主ルールを設けて、自然や環境への影響を少なくするようにしている。</p> <p>自らもインストラクターとしてツアーを引率し体験指導等を行っており、2006年にはNPO法人日本エコツーリズム協会「このガイドさんに会いたい100人」に選出された。</p> <p>そのほか、旅館等の若女将らでつくる「うめの薔会」の代表として、高齢者や障害者への観光サービスの提供や、海と観光のつながりの学習等に関する勉強会を主導している。</p>
NPOグリーンコン シユーマー高松 (代表:勝浦 敬子) (団体)	—	香川県	2007年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」3R活動推進功労(団体)<環境省主催>	<p>2005年に地元特産の讃岐うどんと割りばしを結びつけたりサイクル活動として、地元うどん店や製紙工場、福祉施設などに働きかけ、知的障害者等がうどん店から回収して乾燥させた割りばしを古紙卸売業者が製紙工場に運び込み、紙に再生するシステムを構築した。これまでに、約31トンの使用済み割りばしを回収して紙に再生しており(炭酸ガス削減量は約50トン)、循環型社会の構築に大きく貢献している。</p> <p>また、小中学校や地域団体への出前講座のほか、2006年からは生活に身近な割りばしのリサイクルをきっかけとして環境問題を考える「こどもわりばしサミット」の開催など、環境問題に対する意識啓発にも取り組んでいる。主婦としての視点から「もったいないを形にしまあせ(讃岐弁でしなさいと言う意)」を合い言葉とした活動は、広く県民や企業の取組促進につながっている。</p>
NPO法人 スペースふう (代表:永井 寛子) (団体)	—	山梨県	2007年度「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」環境大臣賞<リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催>	<p>2002年に全国でも例のないリユース食器のレンタル事業を開始した。地元企業、山梨大学、山梨県、増穂町などと産学官連携により取組を進め、2004年には地元企業との協働によりサッカーJ2の試合でデポジット制リユースカップを本格的に導入、商工関係者やマスコミ、特に若い世代にリユースの意識を定着させた。</p> <p>その後、活動が広がるにつれて使用食器の遠距離輸送という新たな弊害が課題となつたことから、2005年に事業の広域ネットワーク化を図るために「リユース食器ふうネット」を開始した。加入団体を募りノウハウを提供して事業所設立を支援する形で、現在、全国に7事業所を展開している。</p> <p>このほか、地元自治体との協働により、菜の花を活用した環境への取組やバイオディーゼル燃料(BDF)としてリサイクルするための廃食油の回収なども行っている。</p>